



このレポートは、私・和仁が毎月のコンサルティング活動や日常生活を通して気づき、学ばせて頂いたことを書き留めたものです。  
お気軽にご笑読頂ければ幸いです。

## 【今月の気づき】



### 『聞きにくいことを、遠慮せずに尋ねる方法』

**常**連客とは言え、あまり相手のことを知らずに、年数を重ねていることってありますよね。先日セミナー後の懇親会の席で、ある製造業の二代目社長から質問を受けました。

「実は、いま新しく社員を雇うかどうか、迷っているんです。というのも、得意先の今後の受注が上向いてきたら、いまの人員では足りないので雇いたいんです。もし今のままがしばらく続くのなら、利益を圧迫するので、雇う必要がないし。どうすべきでしょうか？」

ここで今後の経済予測の一般論をかざしても意味がないので、わたしは質問を返しました。「主要なお客さんの受注量が増えれば、あなたの会社への発注量も増えるわけですよね？  
では、その受注量の情報は、リアルタイムで入手できるようになっていますか？」

答えはNOでした。それどころか、毎月お会いしているはずのお客さんとの会話の中に、「今後の受注見込みはどうか？」「増えそうか？減りそうか？それとも横ばいか？」を聞きとることさえないとのこと。理由を尋ねると、その答えにわたしはビックリしました。「なんだか、そんな、こちらの都合で、お客さんの懐具合を探るようなこと、聴いていいんでしょうか？」

それを聞かずに、世間一般のニュースで言われている情報だけで、自社の受注見込みを予測するなんて…。ただ、彼の言い分もわからなくはありません。わたしは再び尋ねました。「『こちらの都合で』と言われたけど、それを聞くことが相手のメリットになる側面はありませんか？」

彼はハッとした顔で答えました。そうです。こちらの興味本位ではなく、相手側のメリットをふまえて尋ねれば失礼にはなりません。たとえば、「今、当社で新しく人を雇うかどうか検討してまして。例えば、もし御社からの発注が増えた場合に、こちらの受け皿が不十分でご迷惑をおかけする、なんてわけにはいきませんので、お尋ねしたいんですが、今後のおおよその受注量の見込みについてお聞かせいただけませんか？」というように。  
聞きにくいと感じるのは自分の都合で聞くから。相手の都合のために尋ねてみよう。

## 【今月の一冊から】

### 『あなたがモチベーションをあげたいときに、 見るべきもの、見てはいけないもの』

不幸の第一原因は状況ではなく、その状況についてのあなたの思考なのだ。  
自分の思考をきちんと観察しよう。思考を状況と切り離そう。状況はつねに中立だし、つねにあるがままである。向こうは状況あるいは事実があり、こちらにはそれについての自分の思考がある。物語をつくったりせずに、事実とともに留まってみよう。  
たとえば「私はもうダメだ」というのは物語だ。物語はあなたを限定し、効果的な行動を妨げる。「通帳に五十セント残っている」というのは事実だ。事実と直面すると、必ず力が湧いてくる。だいたい自分の思考が感情を生み出すということに気づこう。  
思考と感情のつながりを観察しよう。  
思考と感情になりきるよりも、それを後ろから観察して気づく存在になること。

（『ニュー・アース』 エックハルト・トール 著  
サンマーク出版 P.109 より引用）

ドンブリ経営の社長に、「なぜ、お金と向き合わないんですか？」と尋ねると、多くの場合「いや～、できることなら通帳とか決算書は、見たくないんです」と苦笑いして答えます。その理由は、『自分と向き合うのが苦痛だから』ということでしょう。  
つまり、理想の姿からかけ離れた現実と直面すると、「自己管理できない、すべきことも満足にできないわたしは、ダメなヤツだ」と連想し、自分を責めてしまうのが辛いわけです。ぜい肉を気にしながらも体重計に乗りたがらないのも同じです。  
しかし本書にもあるように、「事実と直面すると、必ず力が湧いてくる」としたら、逆に言えば、事実と直面するのを避けていれば、力が湧くチャンスも逃してしまうことになります。実際、陸上選手が100m走で新記録を追求するモチベーションを維持できるのは、タイムを記録しているからです。記録をとらずに、ただ走るだけでは気力がもちませんよね。  
つまり、**自分についての事実を直視するのは、モチベーションを高めるコツ**なんです。

しかし一方で、「かえって自分に自信をなくす人もいるのではないか？」という声も。たしかに事実と直面して、自信をなくす人もいます。ただそれは、**自分の事実を、他人と比べたときに自信を無くす**のではないのでしょうか。両者の差が大き過ぎると、「やっぱり自分はダメだ」と気力が失せることがあるので、チャレンジの初期段階では他人と比べるのは避けましょう。「では、他人と比較する意味は全くないのか？」というと、そんなことはありません。自分に自信がついてきたら、他人と比較するのもアリです。なぜなら、井の中の蛙になって傲慢になるのを避けられるからです。タイミングによって、見るべきもの、見てはいけないものがある。それを使い分けて、楽しく前向きに生きたいですね。